

2015年

東大内でこころの健康に興味をもつ5部局の研究者により「こころの多様性と適応の総合的研究機構 UTIDAHM」を設立。その後7部局に拡張。研究会やシンポジウムを通してこころの健康について意見交換を深める。

2016年

UTIDAHMの理念を教育に還元すべく、部局横断型教育プログラム「こころの総合人間科学 PHISEM」を開始する。

2017年

UTIDAHMでの知的交流を実際の共同研究として開花させるため、人間行動科学研究拠点準備室を開く。

2018年2月

人間行動科学研究拠点準備室 立ち上げシンポジウム開催（理学系研究科、総合文化研究科、医学系研究科、人文社会系研究科、生産技術研究所の5部局の教授による講演）。同年12月、CiSHuB 公開講義「人間研究のための基礎知識」を開催（薬学系研究科、医学系研究科、情報理工学系研究科、理学系研究科の研究者による講演と意見交換会）。

2019年12月

二回目となるCiSHuB 公開講義「人間研究のための基礎知識」を開催（総合文化研究科、法学政治学研究科の研究者による講演とポスターセッション）。

2020年12月

オンラインでシンポジウム開催。



人間を知りたい。



私たちは東京大学に部局連携による「人間行動科学研究拠点 U Tokyo Center for Integrative Science of Human Behavior ; CiSHuB」を設立しようとしています。

こころの健康は、人間の存続を左右する大きな問題です。こころの健康を増進するためには、基礎研究として、脳とこころの理解が必要です。このため、人間行動研究に関心を持つ研究者が7つの部局から結集して、共同研究を進めるための組織としてCiSHuB 設立準備室を作りました。ここには分子、遺伝子、神経系、脳、行動、集団、社会に至るまで、さまざまな研究者がいます。私たちは共同研究、シンポジウムの開催、学生の交流、レクチャーコース等を通じて、学内外・学生か教員かを問わず、脳とこころに興味を持つ人たちと議論と交流を進め、人間行動科学研究拠点 CiSHuB を設立する準備を進めたいと思います。

代表
岡ノ谷 一夫
総合文化研究科



人文社会系研究科 **亀田 達也**
(社会心理学)



人の「心」は社会的に設計されています。ヒトはプラス(共感・利他性)、マイナス(嫉妬・偏見・差別)の両面で、他者の福利や社会状態に無関心であることができません。私の研究室では、ヒトにユニークな高度の社会性がどのような進化的・社会生態学的な基盤をもち、どのように私たちの「心」に実装されているのかを検討しています。社会的価値やモラル・正義を支える認知・神経メカニズム、社会的意思決定のアルゴリズム、集合知の認知・行動的基礎を理解することを目指しています。

総合文化研究科 **岡ノ谷 一夫**
(生物心理学)



当研究科では、認知科学と進化学を融合して、人間性の進化とそれを支える脳機能についての研究を進めています。共同研究施設として、機能的MRIの管理運営を担当しています。

私の研究室では、特に小鳥のさえずりと人間の音楽を、進化と脳機構から比較しています。また、ラットの認知機能を人間の認知機能と比較して認知の多様性を研究しています。

薬学系研究科 **池谷 裕二**
(脳神経科学)



これまで、人工知能と脳科学は個別に研究が進んできました。それぞれの分野で大きな発展がありますが、私たちは、脳回路に人工知能(AI)を連結することで、まだ引き出されていない脳の隠れた能力を顕在化し、有効活用する可能性を探索しています。新次元の知能“Deep Wisdom”を開拓し、人類の生産性と幸福度の向上を目指しています。

こころの健康、脳とこころの理解、人間の存続



医学系研究科 **笠井 清登**
(精神医学)



思春期は、進化の過程で非ヒト霊長類に比べてヒトで格段に長くなり、かつ個体発達上も、ヒトで格段に進化した新皮質ネットワークが最終成熟するライフステージです。親子関係を基盤として価値が継承される児童期から、思春期には仲間・社会との関係を経て価値が主体化し、長期的な人生行動を駆動していきます。また思春期は、精神疾患の最大の好発期でもあります。わたしたちは、思春期の発達脳科学と発達精神医学研究を総合的に進めています。

ニューロインテリジェンス
国際研究機構
(IRCN) **合原 一幸**
(複雑系数理モデル学)



私の研究室では、複雑系数理モデル学を基礎にして、ニューラルネットワークと非線形動力学を用いた脳の動的情報処理機構の数理モデル化、そのハードウェア実装によるニューロモルフィック・ブレインモルフィックAI構築、さらには人間集団の行動パターン解析などを通じて、人間行動の科学的理解とその応用に資する理論的・実験的研究を目指しています。

法学政治学研究科 **加藤 淳子**
(神経法政治学)



社会科学の知識を活かし、現実の社会における行動の背後にある神経過程の解明を進めています。現在、法律の専門知識の有無によって法的判断及びその神経過程が異なるか、福祉国家への支持の高低により所得分配の平等の実現に対する評価や神経過程が異なるかといった研究を進めており、実験の枠を超えた現実主義的アプローチで、人間行動の理解を深めることを目的としています。

理学系研究科 **飯野 雄一**
(分子神経行動学)



人間の行動は何によって駆動されているのでしょうか。高度な価値判断や理性に根ざした行動もある一方、衝動的な感情や動物的な欲求に根ざした行動もあるでしょう。理学系研究科では行動を駆動するしくみの進化的起源を探るべく、さまざまな動物を用いて神経機構の研究を行っています。当研究室ではたった302個の神経を使って動いている線虫という動物を用いて行動を引き起こす分子や神経回路のしくみを研究しています。



医学系研究科 **岡部 繁男**
(神経細胞生物学)



総合文化研究科 **四本 裕子**
(認知脳科学)



総合文化研究科 **橘 亮輔**
(神経行動学)



総合文化研究科 **小澤 幸世**
(臨床心理学)



理学系研究科 **榎本 和生**
(神経発生学)



総合文化研究科 **小池 進介**
(精神医学)



総合文化研究科 **中村 優子**
(脳機能画像神経学)



CiSHuB事務局 **高見澤 いずみ**